

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570809160		
法人名	伊藤電気株式会社		
事業所名	グループホーム大曲はなぞの 2号館		
所在地	秋田県大仙市大曲花園町25-26		
自己評価作成日	平成28年11月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成28年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念として1. 家庭的で暖かい雰囲気の中での生活。2. 生きがいのある生活。3. 人間としての尊厳が守られる生活4. 地域に溶け込んだホーム作りを目指し、1・2号館、それぞれの入居者様のこれまでの生活を尊重し、なじみの家事や得意なこと、興味のあることをこれからも継続し、穏やかに過ごされるよう支援させて頂いている。
また、地域とのつながりも年々深まってきており、保育園の園児との交流や町内会との交流、ボランティアのお茶会、歌や踊りの会等の来訪も入居者様の楽しみとなっている。
地域に溶け込めるホームづくりを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「大曲の花火」の会場の近くに事業所があり、花火を見ることができる。事業所の代表者は、職員からの意見や提案を可能な限り取入れ、利用者が安心して生活ができる環境作りに努力されている。居室やホール等が床暖房になっていて暖かいが、建物内は温度差があり、室温が低い場所にはエアコンを設置し、快適に過ごせるよう配慮している。湿度温度計が各居室やホールに設置してあり、加湿器やタオル、洗濯物を干すなどして、乾燥しないようにして管理している。地域との関係は良好で、行事に協力してもらったり、事業所のチラシを配布するなどホームの情報を発信している。職員は利用者の情報を共有し、支援の方向性を話し合い、その結果をケアに活かしている。職員の笑顔が利用者へ響き、利用者は穏やかな表情で過ごされていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、スタッフルームにりねんを掲示している。昨年実践者研修にて理念について見直し、日々の申し送りや月1回の会議では理念に沿った入居者様との関わりをしていくよう話している。	理念は玄関や事務所、職員の目のつくところへ掲示しており、管理者、職員は日々、理念を意識して日々の業務にあたっている。新人の職員へ浸透、実践できるよう伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接する町内会へ所属し76歳以上の対象者での食事会には職員付添いにて参加している。又、施設での芋煮会や歌や踊りの慰問ではちらしを配り参加を呼びかけ地域と交流できている。	町内のふれあい昼食会へ利用者、職員が参加したり、職員が町内の集まりへ出掛けたりしている。事業所内で行事がある際は、作成したチラシを管理者、職員が近隣へポスティングし、参加してもらっている。事業所は「認知症何でも相談所」になっており、実際に地域の方からの相談を受けるなど、地域の中の事業所の役割を積極的に発信している。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域の方との認知症を学べる場として、認知症サポーター養成講座の開催や認知症なんでも相談所を設置し、地域貢献に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長、家族の代表者、以前入居していた利用者様の家族にも引き続き参加して頂いている。又、水害対策や避難訓練の報告では消防署職員にもアドバイザーとして参加して頂き意見を頂いている。	毎回違う利用者が、運営推進会議に参加されている。会議の中では質問に答えたり、参加者から出た意見や提案が活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政担当者として介護保険事務所職員より参加しておりそこから色々な情報や助言をいただくことでできている。	運営推進会議に毎回出席してもらい、意見や情報をもたらしている。地域包括支援センターとも連絡をとったり、市町村担当者と良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在まで身体拘束の事例はなし。身体拘束しないケアに取り組み、外部研修あれば参加するようマニュアルも完備している。	身体拘束防止マニュアルは職員がいつでも見られる場所へ設置されている。身体拘束の研修は今年度はまだ行ってはいないが、外部の研修へは積極的に参加し、その内容は、月1回の会議の際に、職員へ共有され、日々の支援に活かされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアが精神的、身体的に苦痛にならないようにし職員間で話し合い取り組んでいる。虐待の研修あれば参加して虐待のない施設づくりに取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会があったが、実際に制度を活用したことはない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に入居者様、御家族様と面談する際に不安や疑問点を解決したうえで契約できるようにしている。又、改定がある場合は文書で連絡するとともに必要あれば再度口頭でも説明し、理解・納得できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では入居者様や御家族様代表にも参加してもらい意見を頂き、災害時の対策にて避難や非常時の対応の意見を頂き準備をすすめている。又、ご家族様にはアンケートを実施中。	家族とは面会時や電話で意見を聞いている。利用者からも日常の会話から意見を聞いている。家族への請求書送付時には利用者の話した一言や担当からのコメント、事業所通信のほか、介護記録を抜粋して送付しており、家族の安心につなげている。また、今年から家族へのアンケートを実施しており、今後集計して活用する予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、全職員での会議の場を設けており、意見や要望を話し合い、電動ベットやエアコン設置等の実施に繋がっている。又、会議以外の場でも意見や提案があれば随時対応するようにしている。参加できるときは代表者も加わり意見・感想を頂いている。	会議には代表者も参加している。備蓄品、非常食を納めるロッカーを設置したり、必要な場所へのエアコンの取り付けなど、代表への意見も言いやすく、必要な設備の購入へつながっている。年1回、職員の自己評価を行っており、職員は普段の振り返りをしてケアに活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力や頑張り、実績を評価し、意欲を持って勤務できるよう努めている。最近、夜勤手当の増額等条件面での整備や設備の不備、不具合の不都合には早目に対応し解決を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・職員は各種研修に積極的に参加している。受講者は研修後に報告書を作成し、全職員に内容を伝え、共有する体制が整っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・職員はグループホーム協議会等に参加して、交流を深めており、サービスの質の向上に取り組んでいる。代表者は一部の会の役員として研修の企画、立案にも参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談にて可能な限り、訴えや要望を聞き、入居後の不安解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前までの相談にて家族の気持ちや要望等を把握できるよう努めている。又、入居後も状態をみて連絡をとりあえる体制づくをしている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム内で生活を共にしているという関係を目指している。入居者様の思い、不安、喜び等を共に分かち合い、支えあえる関係づくりをしている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の思いや意向を大切にしながら、家族との繋がりが保てるよう支援している。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員はもちろん、家族や友人の協力にて自宅やその周辺への外出、馴染みの理美容店や信仰している寺院、趣味の茶会へ参加できるように支援している。又、ホーム内での馴染の場として訪問利用やマッサージの利用もしている。	入居時のアセスメントを通じて、本人や家族等から以前からの関係性を把握している。自宅周辺までドライブをしたり等、できる限り対応している。また、訪問マッサージに訪れる方との新たな馴染みの関係ができ、利用者の楽しみになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係や一人一人の思いを把握し、必要時は職員も見守りや仲介することで孤立しないよう支援している。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じ相談、情報提供をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	誕生日にはそれぞれの食べたいものを聞いたり、毎月利用者様から「敬老会の感想は」等の今月の一言を頂き、ご家族様への広報に載せている。又、利用者様一人一人の状態を毎月のカンファレンスで話し合っている。	利用者へ食べたいものや、したいことなどの希望を普段から聞いて、できる限り実行に結び付けている。希望をあまり話さない方には、入居時や家族の面会時に聞いていた話題などから提供するようにしている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接時より生活の聞き取りをし、センター方式の記入、作成をして現状の把握に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	些細なことでも日々の申し送りと毎月のカンファレンスにて現状の把握ができるよう職員間の報告・連絡・相談に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員一人に対し、1人から2人の担当制を半年交代制にし、担当者の記録をもとに皆で話し合い介護記録に反映させている。又、利用者様の状態をご家族様に知っていただくための介護記録の送付も行っている。	介護計画の見直しは随時行っている。月に1回、担当の職員が本人の状況をカンファレンスシートに細かく作成し、それを会議時に職員全員で話し合っている。出た意見や情報を基にしてまとめ、介護計画に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の些細な言動や行動、プランの内容も記録に残すよう徹底している。又、毎朝・夕の申し送り時やカンファレンス、状態変化時に情報を共有できる記録記入に努めている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	農・園芸作業に取り組んだり、地域の行事等の予定を把握し、一人一人の能力発揮や楽しんで生活できるよう支援している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には施設施設で受診対応している。又、協力医院からの往診もあり予防接種もホームに来て頂いている。薬局や医師との連携もとれており、安心できている。	希望のかかりつけ医を受診している。受診時は、職員が付き添い、希望の際は家族が付き添いしている。また、2週間ごとに事業所への往診があり、利用者、家族の安心につながっている。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約をし、月2回の定期訪問に加え、状態変化時の相談等を24時間体制にて対応できるようになっている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関に情報を提供し、入居者が不安なく治療を受け、早期に退院できるよう努めている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医や家族との相談のもと、看取りのケアも行った事例あり。緊急時のマニュアルも作成しかかりつけ医や緩和ケア科外来、病棟との協力体制もとれてケアにあたることできていた。又、終末期対応終了後は家族様からの感謝の手紙もあり、それを知らせることで職員のやる気へ繋げている。	近隣の病院に緩和ケアができたことにより、重度化した場合でも医者や看護師等と連携を図りながら、希望により、ぎりぎりまでホームで過ごすことが出来る。利用者や家族の安心につながるよう、状況に応じて話し合いをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署への依頼・協力のもと、年1回の救命救急講習会を実施できるよう努めている。又、急変時の対応マニュアルも作成している。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内へ訓練のチラシを配布することで参加を促している。又、運営推進会議に参加して頂いている町内会の方には緊急連絡網へ入って頂き協力体制をとれている。避難訓練結果は運営推進会にて報告している。	避難訓練では、近隣へ作成したチラシを配布し、地域住民から参加してもらっている。運営推進会議で依頼を受けて「避難誘導競技会」を行っている。備蓄については保管庫を新たに設置し、より多くの品を保管できるようにしている。	今後、避難の際に地域の方に何をしてもらえるかなど、役割について話し合いをして明確しておくことや、作成された水害マニュアルをもとに、実際の想定訓練について話し合いをされることが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員に守秘義務の徹底を図り、名前の呼び方や声のかけ方についての話し合いもしながら対応している。又、職員同士でも日々のなかで意見や注意をし合える環境作りにも努めている。	声のトーンについて職員同士で気を付けている。利用者をトイレへ誘う際には耳元で静かに話すなど、プライバシーに配慮している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の様々な場面にて食べたいもの、行きたい所等の決定ができる機会を設けている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人一人の体調や生活習慣を把握し、希望や訴えにも合わせた生活ができるよう支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の希望や好みを確認しながら、支援している。又、外出等の声掛けを事前にする事で化粧や身だしなみを整えることもできている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材や昔からの郷土料理を入居者様の意見をもとに取り入れている。又、作業の過程でも得意分野を生かしながら参加してもらっている。	近隣、知人から野菜や山菜、魚介類等をもたらした際には、利用者が率先して料理前の下処理を行ったり、食事後には下膳や食器拭きなど、出来ることに関わってもらうようにしている。献立は、肉と魚、ご飯と麺を交互に提供したり、季節の食材を取り入れるなど、職員は食事を楽しめるよう努めている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時、一人一人の食事・水分摂取量をチェックしている。又、好みの飲食物の把握もし、栄養・水分の確保に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人の能力や状態に合わせた口腔ケアをしている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様一人一人の排泄をチェック表に記入しオムツやリハビリパンツを利用していてもできるだけトイレにて排泄できるよう支援している。又、状態によっては都度ポータブルトイレの設置も行っている。	排泄チェック表から排泄パターンを把握し、可能な限りトイレで排泄できるよう支援している。夜間は紙おむつの場合でも、日中は紙パンツを使用して様子観察している方もいる。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為に、食物繊維のある食品や野菜を取り入れるように心がけている。又、毎日の体操も継続して行っている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	生活習慣や体調に合わせてながら週2回の入浴日を設けている。入浴が困難な時は清拭も取り入れ、気持ちよく生活できるよう支援している。	週に2回入浴をしている。体調に合わせて入浴時間を配慮している。入浴をしたくないとの意思表示された方へは、時間をおいてから声掛けを試みたり、声掛けの内容を工夫している。入浴中は1対1での会話が出来たり、利用者が歌を歌ったりして楽しめるようサポートしている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその時々体調に合わせて、休憩や睡眠がとれるように支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬についての内容は個人ファイルに処方箋を収納していつでも確認できような体制にしている。又、症状の変化時は記録とともに、主治医や訪問看護師に確認するようにしている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や入居者様の好みや能力に応じた活動が提供できるように支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員始め、家族や友人の協力にて自宅や理美容店、墓参り、宗教活動等への外出ができるよう支援している。又、スーパーへの買い物や花見、ドライブにて全員で外出できるよう支援している。誕生日には利用者の希望に添って外食できる支援もしている。	年に2回、全員での外出を行っている。花見や農業科学館、ラベンダー畑など、季節に合った外出をしている。また、普段から天気に合わせて散歩や敷地内の東屋でお茶をするなど、外に出る機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や御家族様との確認のもと、お金の所持、使用をしている。現金保管については施設管理と本人管理での取り決めを交わし、書面にも残している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様からの希望も踏まえたうえで、できる限り本人の希望に添えるよう支援している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある小物や貼物をする事で季節を感じられる空間づくりに努めている。又、床暖房や冷房の完備もあり、冬期間は感想と風邪予防にて加湿器設置し管理と確認を行っている。	壁には季節に合わせた装飾、廊下などには画家の描いた懐かしさを感じさせる絵がかけられており、美術館のようである。空調は、全体が床暖で温かくなっている。それでも足りない場所へはエアコンを取り付けている。加湿器やタオルや洗濯物を干すなどして、乾燥しないよう配慮している。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内各箇所にある椅子やソファ、畳の真にてそれぞれの居場所をみつけ、馴染みの入居者同志で過ごすことできている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンとベット、小箆箭的なものは備え付けだが、他は自宅で使い慣れた家具や亡くなった方を弔うための仏壇、テレビ等を持ち込んで頂き、居心地の良い環境になるように工夫している。又、殺風系景な居室には貼物等にて工夫している。	居室には全室へ湿度・温度計が設置されている。また、消臭剤を使用して不快な匂いのないように気を配っている。利用者が以前使用していたものや、趣味で使うものなどを持ってきてもらい、安心して過ごしてもらえるようにしている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や居室内の入り口、ベット等に手すりを設置し、安全に移動できるよう配慮している。又、必要によっては位置の検討・実施もしている。		